

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホーム わたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成23年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人一人の個性や生活のペースを大切にしたい『個を重んじるケア』を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

月に1回の「模擬喫茶」は、利用料の支払いにご家族が来られる時期に合わせて開催されており、ご家族と利用者が一緒にお茶を楽しめるような機会を作っておられる。ホーム便りは、最後のページに、個別にご本人の様子と写真を添えるように工夫しておられ、毎月ご家族に送付されている。
ご家族には、毎回、運営推進会議の案内を出して参加を呼び掛けておられ、時には認知症のビデオ等を見て、ともに勉強をされている。又、利用者の状態のこともあり、休止していたボランティアの受け入れについて、会議時、ご家族からの提案をきっかけにボランティアを受け入れられ、踊りを披露していただき「きれいやなあ」「よかったあ」と好評だったようだ。事業所では「リスクを恐れず取り組みをすすめる」気持ちを強くされたようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム わたしの青空

(ユニット名) 西通りユニット

記入者(管理者)

氏名 荒谷 留里

評価完了日 23年 2月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			リビング内に理念を掲示し、日々の実践に活かすように心がけている。	
			(外部評価)	
			「ゆったりとした自由な暮らし、穏やかで安らぎのある暮らし、自分でやれる喜びと達成感のある暮らし、自分らしさや誇りを大切にされる暮らし、地域住民の一人であるという実感のある暮らしの実現」を事業所の理念に掲げ、玄関や両ユニットに掲示しておられる。管理者は、職員会時や職員の採用時に理念について話しておられ、理念を実践するために「利用者をよく観察することが大切」と伝えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域との交流を日常的なものにするには至っていない。時折り、近くの団地の小学生たちが立ち寄ってくれ、息抜きの時間を過ごしていってくれる程度である。	
			(外部評価)	
			開設2年目の秋祭りは、祭り時に唐獅子が来てくれたり、事業所で芋炊きを行った際には、案内チラシを配り団地から子ども達が親と一緒に参加してくれ、その後、小学生が遊びに来てくれたりする。	事業所の立地や地域性等のこともあって、地域のことについて情報を知ることが難しいようであるが、利用者が「地域住民の一人であるという実感のある暮らし」ができるよう、事業所では、今後、地区の自治会や社会福祉協議会に働きかけ「行事やボランティアなどの情報を得たい」と考えておられた。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			取り組めていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の内容や進め方に工夫が足りなかったためか、論議に深まりがみられず、出された意見等をサービス向上に活かすことが十分にできていない。</p> <p>(外部評価) ご家族には、毎回、運営推進会議の案内を出して参加を呼び掛けておられ、時には認知症のビデオ等を見て、ともに勉強をされている。又、利用者の状態のこともあり、休止していたボランティアの受け入れについて、会議時、ご家族からの提案をきっかけにボランティアを受け入れられ、踊りを披露していただき「きれいやなあ」「よかったあ」と好評だったようだ。事業所では「リスクを恐れず取り組みをすすめる」気持ちを強くされたようだ。</p>	<p>事業所では、会議に民生委員の方にも参加していただいているが「会議に地域の方の参加を増やしたい」と思っておられる。事業所が地域密着型サービス事業所として「地域に何ができるか」又「どのようなことを地域から期待されているか」ということ等についても話し合い、地域との関係作りに会議を活かしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で事業所の実情やサービスの取組みを伝えたり、必要に応じて相談をしたりするなど、協力関係を築くようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所で解決しにくいような事例があった場合は、町の高齢福祉課に相談して、助言をいただいたり協力してもらっている。事業所の下の方の坂道のカーブを通る際に危険であったが、高齢福祉課から話をしてもらって溝にグレーチング(格子状のふた)を取り付けていただき、利用者が安心して通れるようになったようだ。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 『身体拘束などの排除の理念及び方針』を定めており、職員研修等を通じ、身体拘束をしないケアについての認識を全職員の共通理解とするよう努めている。</p> <p>(外部評価) 職員全員で身体拘束の基本的な知識や言葉での拘束について勉強をされている。又、薬による拘束については、薬剤師を招き研修をされた。「帰りたい」と外に出る利用者には、すぐに声をかけないで観察されており、管理者は、「本人は何がしたいのか」を知ろうとすることから「その方に合ったケアが始まる」と職員に指導されている。転倒する可能性があるような利用者には、杖や布団に鈴を付けて利用者の動きが分かるようになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			職員研修を通じて、全職員の虐待防止に対する意識の高揚に努めており、虐待防止の徹底を期している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			権利擁護に関する制度の理解と活用について、全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			十分に時間をとって説明し、利用者・家族の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			運営推進会議や面会時に意見、要望を聞きだすように努めている。	
			(外部評価)	
			運営推進会議時、ご家族からいろいろな提案や意見をいただいている。「保育園児に来てもらってはどうか」というご家族からの提案もあり、利用者の様子も見ながら検討したいと事業所では考えておられた。月に1回の「模擬喫茶」は、利用料の支払いにご家族が来られる時期に合わせて開催されており、ご家族と利用者が一緒にお茶を楽しめるような機会を作っておられる。ホーム便りは、最後のページに、個別にご本人の様子と写真を添えるように工夫しておられ、毎月ご家族に送付されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員会議時に意見を聞く機会をもうけている。「職員組合」はあるが、ほとんど活動していない。	
			(外部評価)	
			事業所内で計画的に職員研修を行うことをすすめておられ、研修を受けることができなかった職員には、管理者が一人ずつに内容を伝えるようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			勤務考課制度を導入している。 産業カウンセラーとメンタルヘルス業務契約を結び、職員が電話及び面接によるカウンセリングを受けられるようにしている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			できていない。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			定期的な取り組みはできていない。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前に訪問面接し不安なことや、要望を聞き、安心していただけるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に事業所内の見学に来ていただき、不安なことや要望を聞き安心していただけるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族等と必要としていることをよく話し合うようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の「理念」の中に、このことを掲げ、職員と利用者とは「介護する側・される側」ではなく、「生活のパートナー」であるとする捉え方を徹底させるよう努めている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との情報交換を行いながら一緒に支援させていただいているという思いを伝えるようにしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 事業所側からの積極的なアプローチは行っていない。 (外部評価) 正月には、事業所から利用者個々に宛ててA4サイズの年賀状を出された。事業所のとりの畑に仕事に来る人と、利用者は居室の窓からあいさつを交わすようになり、利用者にとっては「起こしてくれる人」という認識のようで、顔見知りになっている。「利用者の何回目かの成人式」と銘打って、成人式の日には餅つきをされた際、利用者が率先して餅をちぎったり、丸めたり手早くしてくださり、職員は「利用者にとって餅つきは、晴れの日のならわしである」ことを改めて感じられたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係情報を職員間で共有し、楽しく穏やかに過ごせるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も利用者家族が気軽に立ち寄ってくださっている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中での会話や行動から意向をくみ取ったり、尋ねたりして把握するように努めている。 (外部評価) 管理者は、職員に「利用者の思いを知るには、まず観察する。行動にはすべて意味がある」ことを伝えておられ「同じケアを行っても、時によって受け入れられたり、拒まれたりすることで、利用者の思いや意向を把握して、それらの情報を共有して支援することで利用者の安心につなげる。」ような支援を目指しておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から情報を得て、職員間で共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日介護記録や健康状態の記録をつけて職員間で情報を共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時に家族の意向をお聞きし、カンファレンス時に利用者の変化や家族の意向を踏まえて話し合い、介護計画作成に反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族に電話等でケアへの要望等を聞き取り、利用者の言葉をそのまま載せ、介護計画を作成されている。月1回の職員会議後のカンファレンス時には、職員からの情報を集め、モニタリングを行い「特別なことがなければ6ヶ月に1回」介護計画を見直すようになっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録や介護日誌に毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンス時にはこういったものを踏まえて、介護計画を見直している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>そこまでの取り組みはない。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>そこまでの取り組みはない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>受診は、本人及び家族の意向を最大限尊重しており、かかりつけ医への連絡はこまめに行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>かかりつけ医については、利用者のご家族の希望に沿い支援しておられ、ご家族が通院介助をされる場合は、日頃の様子をご家族に伝え、受診後、ご家族から受診結果や薬についての報告を受けるようにされている。又、職員が通院介助した場合は、ご家族に結果を伝えるようにされている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>気づいたことは職場内の看護師資格のある介護職員に報告・相談を行い、健康管理に留意している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時は介護現場からの情報を提供している。退院時も関係者と連絡・相談を行い、家族が安心できるように努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の状態により適切な時期に家族に説明し、十分に話し合いをしたうえで、協力医と連携して支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>看取り支援を希望されるご家族が多く、ご家族には協力の必要性を伝えておられ、ご家族が泊まって看取りに付き添われたようなこともある。終末期支援時には、主治医のアドバイス等も介護計画に採り入れて、細やかなケアが行えるよう介護計画を作成して、看護師・管理者ができる限り職員の不安を軽減できるよう、フォローしながら支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は実施できていない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練計画はあるが、十分に実施できていない。地域との協力体制は築けていない。	
			(外部評価) 利用者が落ち着かないような状態が続いたことや、職員の交代等もあって、避難訓練を行うことが遅れがちになっている。スプリンクラーは来年設置が予定されている。	近々、消防署の協力のもと、避難訓練を実施する計画が立てられている。事業所の立地的に想定される災害や夜間、職員が少ない時間帯を想定した避難訓練を計画的にすすめて、利用者や職員の安全や安心に向けて取り組まれてほしい。又、地域との関係作りをすすめ、相互に協力し合えるような体制作りが期待される。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者に合った話し方、なじみの言葉、敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけないように配慮している。	
			(外部評価) 居間には、居室の廊下に向けて「監視カメラ」を設置しておられ、何かが起こった時の様子が詳細に分かるようされている。カメラは、ご家族の了解を取り設置されている。利用者がトイレを使用する際には、ドアやアコーディオンカーテンを必ず閉めるよう注意されている。居室の扉は、外部者が来られている場合は、閉めるように気を付けておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を伝えられるような声かけや対応を行うように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、自由にゆったりと過ごせるように支援 している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 希望に応じて訪問美容を利用しカットやパーマを行い、快適 に過ごしていただけるようにしている。女性利用者にお化 粧、マニキュアを希望に応じて行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に材料切りや配膳、後片付けを職員と一 緒に行っていただくようにしている。	
			(外部評価) 入居時、食事の代わりに総合栄養剤を用いていた利用者も おられたが、唾液腺マッサージを行ったり、ペースト食から始 め食事の形態を工夫して支援して現在は、食材によって漬 したり、刻んだりして「ご飯がおいしい」と言われるようにな ったようだ。「その日ご本人の状態によって、積極的にでき たり、負担に感じたりする」ことを踏まえて、野菜の下拵えや食 事の片付けは、できる利用者とその時の状態に応じて行っ てもらえるよう、場面作りをされている。入居前、一人暮らしを されていた方もおられ、食事の時間や席は利用者の以前の 生活の習慣等にも合わせて対応されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量、水分量を利用者ごとに確認している。食事 形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない方にはス ポンジブラシを使用するなどして、口腔清拭を実施してい る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は可能な限り、見守りや定期的な声かけを行い、トイレで排泄していただいている。	
			(外部評価) 高齢者住宅に入居していた方やご自宅から入居された方等、以前の生活環境にそれぞれ違いがあり、夜間時に自分でトイレの場所が分かるよう、トイレに明かりを付けておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量に気をつけ、適度な食物繊維摂取と好みに応じて乳製品を取り入れたりしている。毎朝体操をして、体を動かすようにしている。どうしても便通のない時は医師に相談し薬を服用している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 毎日でも入浴ができるように準備をされているが、介助の必要な利用者は週に2～3回となっている。入浴用いすに座ってシャワー浴をされる方や男性職員が抱えて浴槽で温まる方等、利用者の状態に合わせて支援されている。女性職員の介助を拒否する利用者の方には、男性職員が勤務の日に入浴するようになっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと自由に自分の時間を過ごしていただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は個別のロッカーに保管し、薬の内容についていつでも確認することができる。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外泊・外出は家族の協力も得ながら、いつでもできるようにしている。 (外部評価) 正月にご自宅で、ご家族と2～3日過ごされる場合は、夜間のトイレの回数や薬の飲み方等についても詳しく情報提供されている。秋祭り時にも、ご家族と外出された方がおられる。梅やコスモスの花見には、3グループに分かれて出かけるようにされており、車いすで散歩したり、スーパーへお菓子を買いに行かれるが「急な坂道の上がり降りがたいへん」という利用者の声もあるようだ。	利用者一人ひとりの行きたい場所、会いたい人等の把握に努め、ご家族の協力等も得ながら支援をすすめてみてはどうだろうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にさせていただいている。携帯電話を所持し自由にやり取りしている利用者もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関やリビング内に利用者の写真を飾ったり、利用者と一緒に作った飾りを置いたりして、居心地よく過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 玄関にはクローバーの鉢植えがあり、訪れる方に「幸運の四葉」を差し上げるようにしている。玄関に對面して「ハウス」が建っており、模擬喫茶や職員のミニ研修時に利用されている。玄関には、生花が生けてあり、壁には利用者の写真を貼っておられる。居間の天窓からは自然の光が入り、畳のコーナーにはマッサージチェアが置いてあったり、洗濯物を置く場所にもなっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置いており、畳のスペースもある。一人一人が思い思いに過ごせ、気の合う者同士で座ることができるよう配慮している。	
			(外部評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室入口には、名前の横に利用者と担当職員の大きな顔写真が貼ってある。身体状況や生活習慣に合わせてベッドや布団を使い分けておられ、電動ベッドの柵には手を挟まないようタオルを使ったカバーが掛けてあった。布団や杖に鈴を付け、利用者が動き始めると職員に分かるようにされている。仏壇や鏡台やタンス等、ご自宅で使っていた物を持ち込まれていた。壁には、利用者の「努力に感謝する賞状」がそれぞれに掛けてあった。部屋の掃除は、利用者職員で行うようにされている。	
			(外部評価) 『できること』『分かること』の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 『できること』『分かること』の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。	
			(外部評価)	